

## NEO-SAGA UNIVERSITY

### 期待するものとは？



《特集1》 未来を拓く佐賀大学へ

《特集2》 佐賀大学学生広報スタッフ座談会

- 社会で輝く先輩からのメッセージ
- 教育・研究 Report
  - ◎ 学生と子どもが楽しみ学び成長する子どものまち活動「ミニさが」を始動
  - ◎ 出土した頭蓋をもとに復顔を行い日本列島住民の顔の変遷に迫る
  - ◎ 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を活用した安全な加工で佐賀の食をもっとおいしく、地域を豊かに
- イキイキ佐大生／佐賀動物レスキュー団体 SART
- お知らせ



読者プレゼント



# 特集1 「未来を拓く 佐賀大学へ」

佐賀大学では昨秋から新体制での大学運営がスタートしました。  
今回、野出孝一学長と6名の理事からのメッセージをご紹介します。

また在学生を代表して学生広報スタッフが、  
学びの面白さなどを語った座談会の様子もお届けします。



## 学びと行動で 実践智を鍛える

佐賀大学が大切にしてきた精神とこれから目指す大学の姿への想いを込め、「実践智で未来を拓く」という言葉を掲げました。研究室や教



国立大学法人佐賀大学 新学長

## 野出 孝一 NODE Koichi

1961年生まれ、大阪府堺市出身。佐賀医科大学卒、大阪大学大学院博士課程修了。本年は事業法人(株)佐賀大学ナレッジ・リンクの設立など推進。好きな食べ物は佐賀の野菜。幸せな時間は明るい未来を空想するとき

室で完結する知識ではなく、地域社会、産業、医療、教育といった現実の課題に向き合い、行動を通して磨き上げる智。それが「実践智」です。

古賀穀堂(※)という人物をご存知でしょうか？ 佐賀の藩校・弘道館の教授を務め、幕末の時代に学問は社会に実装されてこそ「実践智」を語っています。それが弘道館の教育方針に活かされ、副島種臣など社会を変える人材を輩出しました。穀堂は先進性があり、研究を重要視し、蘭学を導入して佐賀の医療の発展に貢献しました。鍋島閑叟(直正)もその教えを受けています。

明治維新の偉人には奉仕や情理を備えた智力、胆力、実行力など社会的能力がありました。それこそ弘道館で身につけた「実践智」です。当時の外圧があり経済や政治も極めて厳しかった状況は、現代と似ている気がします。あのと西から改革が起こったように、今日本が未来を切り拓く機運も、西の佐賀から起こるかもしれません。

## 未来を拓くために大切なこと

私は研究者ですが、研究で最も大切なのは独創性だと考えています。独創性のある研究とは、人がやらないことをやることです。

時間には限りがあります。人と同じ実験をして競争していたら時間が勿体無いのです。誰もやっていない研究ならすぐ論文にできるでしょう。費やした分だけ結果となります。それは事業も同じです。どうしたら、人がやらないことを見い出せるか。皆さんにはそこを考え、想像力を付けてほしい。AIではなく人間だから、できることです。「未来を拓く」には、自らの手で未来を創り出していかうという意思を込めました。一人ひとりが主体となり、挑戦を恐れず、新しい価値を生み出していく。その先に佐賀大学

や社会、皆さんの未来があります。

## 全員に潜在的な力がある

私は父の病をきっかけに開業医を目指しました。卒業後5年臨床に専念し、開業の準備をしていたら先輩に大学院へ来ないかと誘われました。行き先は大阪大学病院の第一内科、「白い巨塔」のモデルとなったところでした。その最も優秀で頑張る人が集まる基礎研究グループでした。開業するし行きたくないと思断ると、断る奴なんていないと叱られると、泣く泣く大学院入学。それが幸運なこと、上司と同僚に大変恵まれたのです。研究は難しくも面白くなり、大学院4年、さらに留学も経験しました。勧められたことは素直に聞くというのが私の経験則です。自分では気づけない力を、周囲は見ているのです。

皆さんも未知なる能力を持っています。その潜在的な力を見極め、経験させ、成長へと導くのが教育の場です。それは学生の皆さんだけでなく、研究者、職員も同様です。全員がその力を大いに伸ばせるように、環境を整え支援していきます。皆さんには自分の潜在能力を信じ、目標を高く、人がしないことに果敢に挑戦してほしい。応援しています。

※古賀穀堂(こがこくどう)(1778~1836年)：江戸時代後期の朱子学者・佐賀藩年寄。佐賀藩主鍋島直正の側近



研究・社会連携担当理事、副学長

## 青木 茂久

AOKI Shigehisa

1968年生まれ、福岡県柳川市出身。医学博士。九州大学理学部から佐賀医科大学へ。2021年医学部病因病態科学講座教授。好物は鰻のせいろ蒸し。新しいアイデアを思いつくことがよるこび



教育・学生担当理事、副学長

## 鯉川 雅之

KOIKAWA Masayuki

1963年生まれ、福岡県嘉麻市出身。理学博士。1992年理工学部助手で佐賀大学へ。2026年コスメティックサイエンス学環長就任予定。好きなものは牡蠣小屋で食べる牡蠣、水草水槽を眺めている時間



総務・企画担当理事、副学長

## 大島 一里

OHSHIMA Kazusato

1957年生まれ、岩手県盛岡市出身。農学博士。1992年農学部助手として佐賀大学へ。2023年名誉教授。好きな食べ物はとうもろこし。幸せは家族や仲間の笑顔、卒業生とお酒を酌み交わすひと時

### 本学を日本の模範になる 「地域の大学」へ

学生の頃はどちらかというと奔放で、社会の動きに強い関心がありました。街の屋台で多彩な大人たちから刺激を受けたこともしばしば。世界中を飛び回るビジネスマンに憧れましたが、大学院博士課程へ進みたい思いが根底にあり、植物の病

気の研究者に。世界中を訪ねる夢は、ウィルス進化研究で叶いました。

札幌で生まれ盛岡で育ち、人生の半分以上を佐賀で過ごしています。キラリと光る獨創性を育て、佐賀大学を日本を代表する「地域の大学」へと進化させたい。そのためにこれまでの方針をさらに発展させた、「ビジョン2040」の策定を皆さまとともに進めてまいります。

### 何にでも興味を持ち 知的好奇心を大切に

意外に思われるかもしれませんが、目立ちたがり屋の学生でしたが、新しいもの、珍しいものが好きで、何でも知りたい思いが強く、研究者となりました。佐賀大学は学生と教員の距離が近くて相談しやすい環境があり、自分のペースで成長でき

る大学だと思います。まずはいろいろな物事に関心を抱いてみてください。対象が見つかったら、次はアクションを起こしてみましよう。その一歩が成長のカギです。

4月開講のコスメティックサイエンス学環と、熊本大学との共同教員養成課程のため、万全の体制を整えてまいります。本学の新たな挑戦にどうぞご期待ください。

### 全学部横断で研究発表 予想を超えた可能性を創出

理学部学生るとき皮膚移植の本を読み、医学に興味を持ちました。九大を卒業した同年、佐賀医科大学を受験して入学。合計10年、研究室に入り浸った学生生活でした。師匠が非常に厳しい方で、好きな実験はできるのですが毎日叱られて、大変鍛

えられました。実験の9割はうまくいかないものです。大切なのは失敗したとき、本当に失敗か？これが本当ではないのか？など考えて気づいていくことです。

URAと一緒に全学部横断の研究発表会「佐大ネクサスフロンティア」を立ち上げました。想定外の組み合わせから、新しい研究が生まれる可能性を広げていきます。

# 新執行部6名の理事が自身の学生時代、現在の取組みなどご紹介します



渉外・連携担当理事(非常勤)

**竹下 真由**

TAKESHITA Mayu

1981年生まれ、佐賀県佐賀市出身。東京工業大大学院修士課程修了。2016年竹下製菓(株)代表取締役社長就任。好物はアイスクリームの他に、カレー、寿司。子ども達と過ごす時間を大切にしている

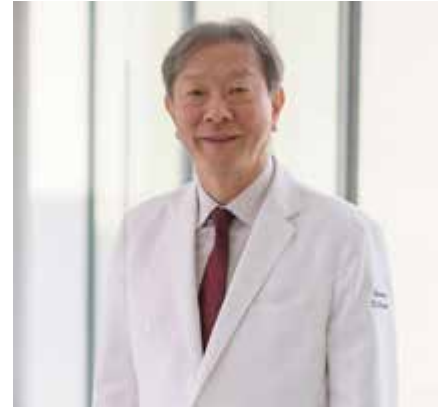


財務・施設担当理事、事務局長

**田中 智雄**

TANAKA Tomoo

1966年生まれ、北海道小樽市出身。1990年文部省入省。医学など教育現場に携わり2018年から各地の国立大学で総務部長など務める。和食が好きで、休日自宅であまりしたり散歩するのが幸せ



医療担当理事、副学長、医学部附属病院長

**野口 満**

NOGUCHI Mitsuru

1960年生まれ、長崎県長崎市出身。医学博士。2010年佐賀大学医学部へ。2022年佐賀大学医学部附属病院院長就任。食べ物は何でもいただき、嫌なことは一晩寝て翌日に持ち越さないのがモットー

## 学内コラボなど新発想でより良い病院環境を

良い医師になりたい。学生時代のその思いから今に至ります。昨年から入院食に農学部産のお米を導入しました。ご飯を食べて元気になる患者さんもあるほど、食は大切です。心と環境づくりに、芸術地域デザイン学部の皆さんの作品展示も計画

## 人の育成を担う大学は国と地域の大切な場所

学生のころ社会に役立つ仕事に就きたいと考えて現職に進みました。以来、教育に長く携わっています。仕事から転勤が多く、日本各地で暮らした経験があります。佐賀は街の規模感がほどよく、食べ物もおいしくて生活しやすさを感じます。

## 今いる場所で思い切りチャレンジを楽しんで

「IDCロボットコンテストに出たい」という夢を追いかけて、東京の大学へ進学しました。複数のサークルを掛け持ちし、いろいろなアルバイトをして、バイクで都内を駆けまわる学生でした。家業を継ぐため佐賀に戻って、ふと空を見上げると

しています。また佐賀の若手医師を増やしていくため、中学生を対象に「ジュニアドクター体験」を行いました。白衣を着せ、研鑽、邁進など言葉を添えたネームタグも贈りました。今年度は多業種のトップの方々からなるアドバイザリー会議を予定しています。新たな取り組みを模索しより良い病院運営を行なっていきます。

現在、野出学長のもと新たなビジョンと、国からの答申や基本方針に基づく今後の佐賀大学として目指す姿の検討に着手しています。佐賀大学は伝統学部以外に芸術、コスメといった他の総合大学にはない個性があり、地域連携も密接です。ただ外の世界に目を向けることも大切です。学生の皆さんには可能性を狭めず、視野を広げてほしいと思います。

バルーンが浮かんでいたり、カササギが飛んでいたりと。そんな風景にホッとしました。野山を駆け回って育ったので、子ども達にも佐賀の豊かな自然を体感してもらいたくよく連れ出しています。学生の皆さんも、今こそいろいろなことに挑戦し、経験の幅を広げてください。佐賀の企業人として支えていきます。



# 学生広報スタッフが感じる 佐賀大の魅力と大学にほしいモノ

**佐賀大学で学ぶ、  
豊かさ、面白さ**

**福田** 前年度から学生広報スタッフに参加しています。去年はコスメティックサイエンス学環のPRでモデルを体験して、今はSNS担当です。  
**林** そのSNSを見て、広報をやってみたいと思いました。撮影を担当する予定です。映像を学んでいて、Yuberのサークルにも所属しています。

**牛嶋** 「イキイキ佐大生」でサークル取材のポイント調整を任せていただけました。先日取材日が決まって、ひと安心したところです。

**堀川** イラストを描くのが好きなので「カッチーくん」を描いたり、絵で貢献できるといいなと思っています。  
**牛嶋** 芸術地域デザイン学部って、興味深いことが多いんです。特に『デザイン発想論』。私たちが無意識に思い込んでいる社会規範から抜け出すと、アートにつながるって。この理解で合ってますか？

**林** だいじょうぶ、合ってる(笑)。

**牛嶋** 最近の課題が「変の生成」。まず変なものを作る方法を14通り紹介され、やかに金管楽器をくつつけるとか、大きな人体模型と小さな人間の写真とか。公表する手法もあつ



理工学部 理工学科 1年 堀川 恵

て自分の通知表を公開するとか。そんな例をヒントに自分で「変」を作るんです。で、凡人の私が必死に考えた結果、アボカドとレモンとみかんとキウイの皮を剥いて、中身を入れ替えました。

**福田** なるほどね(笑)。

**牛嶋** 課題には合ってるはず。土屋先生の講義です。他の先生方も、友達もみんな個性的。なんというか空気が楽しい(笑)。

**福田** 私は、佐賀大学が国立大ながら芸術系の学部があつて、さらに自分のやりたいこととリンクしたって感じかな。

**林** 映像が学べること。今しっかりと学べている実感がありません。映像以外も面白くて、学外へ飛び出す講義で祐徳稲荷や九州国立博物館に行きました。最近では名護屋城へも。教養

科目で、佐賀の歴史を学ぶ宮武先生の講義です。

**牛嶋** 宮武先生！面白いですよね。

**堀川** 化粧品や日用品メーカーで商品開発をしたくて理工学部に入りました。2年から実験が始まるので楽しみです。芸術、面白いですね(笑)。実は芸術にも興味があったけど、自分は「ものづくり」だな、と理工を選びました。だけど「ものづくり」ってデザインや広報してくれる人がいて、成り立つものですよ。私はそんな人たちと一緒に仕事がしたい。って思っ、学生広報スタッフに参加しました。

**林** ちゃんと考えてるね。

**堀川** チューター面談、芸術もありますよね。

**福田・林・牛嶋** あるある。

**堀川** 担当教授と二対一の面談で、



芸術地域デザイン学部 地域デザインコース 1年  
牛嶋 優希奈



芸術地域デザイン学部 芸術表現コース 2年  
福田 花凜

教授にアポを取って研究室で大学生活どうって話をするんですが、面白くて。研究室に行くのって1年生には新鮮だし、遠い存在の教授が身近になる。やりたいことが幾つもあったって教授に聞いてみたら「これやってみたらいいんじゃない」って言われたんです。思ったよりやりたいことやっ、ていいんだって楽しくなりました。デザインや広報もやりたい、理工的なことじゃないけどいいですかって聞いたら、「むしろ新しい視点になると思う、やってみなよ」とも。理工学部の矢田先生です。

### 大学にほしいモノ 学生にほしいモノ

**堀川** 入学して良かったって心から思います。あとは学内に、自分で紙コップに注がなくてもいいカフェが

ほしいです。

**牛嶋** スイーツが食べたいです。

**福田** 静かで、ポーツとできる場所がほしい。制作スペースも。大きい絵を描いているんだけど、教室は4年生が卒業制作で使われます。欲を言うとアトリエがほしいです。

**林** 私はオンラインでやっているけど、落ちていて長時間作業できる場所はほしい。それと本庄キャンパスは自転車と人がぶつかりそうな場面を見かけるので、安全面の工夫があるといいな。それから、カッチーくん。もっというんな展開ができる魅力があるから広報スタッフで考えてみない？

**福田** 変なカッチーくん14通り(笑)。

**牛嶋** 水筒カバー、どうぞでしょう。羽

**福田・林・堀川** ああ、可愛い〜！



芸術地域デザイン学部 地域デザインコース 2年  
林 亜衣

**牛嶋** 実用性もあって、分かる人には分かるデザイン。学内にアイスクリームの自販機もほしいです。

**福田・林・堀川** ほし〜。

**福田** 私たちで商品企画する？ オリジナルのブラックモンブランを考えてプレゼンしちゃうとか。

**牛嶋** 職員の方に、学生にしてほしいことを聞くのはどうでしょう？ 私たち、いろんな事をしていきたい。いる立場じゃないですか。逆に何かできたらいいなと思って。教養棟で落とし物を拾った時、事務室に届けたら丁寧に対応していただいたんです。直接関わりはないけど、いろいろしてくれてるんだらうなあ。いい人たちなんだろうなと思って。

**福田** なるほど。自分たちの企画もいいけど、人の声を聞いて動くのもいい。お互いに思ったことを言い合える距離感がいいね。

**牛嶋** 先輩の言う通り！

**福田** 学部が違えば環境も違って、いろんな意見が出そう。たくさん声を聞いてみたい。そんな機会を作るのもいいかなって思いました。

佐賀大学広報室では、毎年7月に学生広報スタッフを募集しています。詳しくはこちらからご確認ください。



# 社会で輝く 先輩からの メッセージ



2024年度の卒業生・修了生の

就職率は

**99.6%**(2025年5月1日現在)

と近年高い水準を維持しています。

いま社会で活躍している本学のOB・OGから

就職を目指す在学生へのメッセージを紹介します。

## 佐賀大学公式 マスコットキャラクター

名前	カッチーくん
性別	オス
誕生日	2月29日
年齢	ひみつ
好きなもの	いちご
苦手なもの	グリンピース、うめぼし
性格	心優しく、天然系。
	でも好奇心は、鳥一倍

品行方正、というのは冗談で、口ばかり達者な学生だったと思います。世の中のことや哲学のことなど、友達と飲みながら夜通し話したものです。生き方を模索して、他学部の哲学ゼミに参加したり、他大学の講義に潜り込んだり、休学して政治活動をしたり、自由に学んだ学生時代でした。

現代美術表現のゼミ(土屋貴哉研究室)では、複雑な問題・テーマ、想いなどを、「誰が」言っているのかではなく、「何を」言っているのかを軸に、先生や後輩と対等に議論できました。自分にどんなもの差しがあるのか、他人のもの差しは何なのか、そもそも「もの差し」って何なのか。そういったことを考えられるように

なりました。

大学院修了後は、京都のお寺や大阪の化学原料を扱う商社で働いた後、旅の思い出がある高知に地域おこし協力隊として赴任しました。山間部で暮らし、文化複合施設をやってみたい思いがあったのです。

現在、農産物の六次産業化のお手伝いと地域における芸術プログラムの企画・運営、文化的な拠点づくり(文化複合施設の設立)を行っています。人が集まる場所であり、ひとり静かに過ごせる場所でもあり、イベントや図書館で新しいことを学べる場所でもある。高知で出会った人と一緒に、そんな場づくりを目指し邁進しています。

「やりたいことに時間と

全力を注ぎ込もう！」



高橋 健悟

TAKAHASHI Kengo  
福岡市立博多工業高等学校  
地域デザイン研究科  
2023年修了

中土佐町役場  
(地域おこし協力隊)



松尾 天雅  
MATSUO Tenga  
佐賀県立武雄高等学校  
医学部医学科  
2025年卒業  
佐賀県医療センター  
好生館

現在研修医1年目です。各診療科で専門領域の研修を受け、急患対応など行っています。上級医はもちろん看護師や薬剤師、療法士などさまざまな方から日々学び、非常に恵まれた環境にいます。

学生時代は、時間をかけて知識を積み上げるタイプでした。周囲の優秀な学生に刺激を受け、何とか食らいついていたと思います。目の前の患者さんに、小さくても何か救いの手を差し伸べられる医師になりたいと思います、今もそう思っています。一度違う大学に進学しましたが、ある病を治したい夢を諦めきれず、医学部を再受験。家族や友達、先生方のサポートのおかげで決断ができ、今に至ります。

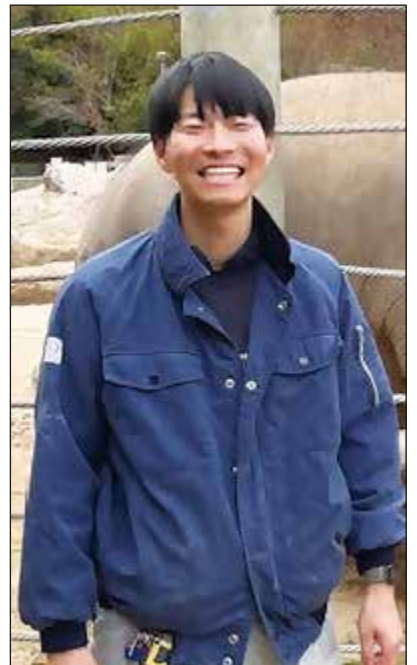
## 「自分自身と対話し納得した

### 決断や挑戦こそ、後々輝く」



周りに優秀な人が多かったため自分の理解の遅さを何度も痛感しましたが、できない自分を味わってきたことが役に立っています。上手いかなんかということがあっても「最初はこんなもんだろう」と先へ進むことができるのです。また友達と協力して勉強し、試験合格を勝ち取ったのも大きな経験でした。何気ない「横のつながり」こそ、実は大切。医療は一人で行うものではなく、さまざまな場面で同僚と支え合うからです。

研修3年目から専門へ進みます。どの診療科に進んだとしても医療チームの一員として活躍できるように医師としての基礎体力を鍛え上げたいと考えている所存です。



白濱 祥平  
SHIRAHAMA Shohei  
私立東福岡高等学校  
農学研究科応用生物科学コース  
システム生態学分野  
2016年修了  
福岡市動物園

子どもの頃から生き物が好きで、動物園水族館の飼育係に憧れを持っていました。高校・大学とすこし忘れていたのですが、大学4年、地元福岡で就活をしているとき「自分が本当にしたい仕事はなんだろう?」

と思い返し、就活をやめて動物園の飼育員を志しました。

動物園水族館の役割の一つに、「調査・研究」があります。その学びと公務員試験のため、佐賀大学大学院に進学しました。大学院修了後、熊本市動物園で3年、愛媛県とベ動物園で2年半、そして福岡市役所の試験を受けて2021年10月入庁しました。現在は福岡市動物園で、2024年にミャンマーから来園したアジアゾウの飼育を行っています。ゾウたち

の寝室や運動場の掃除、エサの準備、健康管理など行い、来園者の方々にアジアゾウの魅力や、野生のゾウたちの現実も知ってもらおうと日々努めています。

野生動物の資料は海外の論文を参考にする事が多く、大学時代に論文を読んでいたことが役立っています。それに多数の学会や講演会に参加してもらったこともいい経験でした。さらに繁殖学や生理学の学びも重要だったと実感しています。

目標は、今いるゾウたちが動物園で幸せに暮らせること。そして100年後、200年後もゾウがいる福岡市動物園を目指し、調査研究や繁殖を行っています。

## 「本当にしたいことを考え、

### 夢をもって就職活動を」



# 学生と子どもが楽しみ学び成長する 子どものまち活動「ミニさが」を始動

教育学部 幼小連携教育コース 准教授

名倉 一美 NAGURA Kazumi



**多様な子どもたちが  
一緒に育ち合う保育に関心**

保育学・幼児教育を専門としています。私はもともと保育者で、行政に異動した際、発達がゆっくりな子どもの支援がまだ手探り状態であることを知り、退職して大学院で学び始めました。

教育学部では、幼稚園教諭の免許取得に関連する講義を担当。幼児の人間関係の発達や、保育者の幼児の集団づくりに関して研究しています。特に発達がゆっくりな子どもなど、多様な子どもたちが一緒に育

ち合う保育に関心があります。講義では、保育者の専門性や幼児の発達について、実際の保育実践と関連づけながら話を展開しています。

研究を進めるうちに、保育ではクラス集団全員がいきいきと生活していなければ、発達にゆっくりな子の居場所はできないと気づきました。そのときから保育者の幼児集団づくり、主にインクルーシブ保育について研究を行っています。

保育の土台として、どんな子どもでも園を「自分の居場所」と感じることが重要です。

## 2種類の幼児「集団所属感」 アセスメントツール(※)を開発

1

### 幼児への 口頭質問による アセスメントツール

- 幼児に簡単な5つの質問をして、実態把握を行う。
- 集団への信頼感(質問1)、集団への好意(質問2~4)、具体的な集団行動(質問5)で点数化。

2

### 保育中の 幼児の姿を観察する アセスメントツール

- 保育中の幼児の姿を7つの視点から観察する。
- 他児とのかかわり(5視点)、保育者とのかかわり(1視点)、1人での探索行動(1視点)をチェック。

そこで、幼児が「ここは自分の居場所」と感じていることを「集団所属感」と定義し、保育者向けに「幼児の集団所属感を見定めるアセスメントツール」を2種類開発しました。幼児への質問と、保育中の姿を観察することにより、その子の状態を把握するための



名倉先生の研究室には絵本や雑貨が並び、温かい雰囲気

## 子どもが企画し運営する 「ミニさが」をスタート

2024年度には、学生と一緒に「ミニさが」を開催しました。ミニさがのモデルはドイツで始まった「ミニ・ミュンヘン」で、基本的に子どもしか入れない、子どもたちが自

身が子どものまちをつくらせて運営する活動です。参加する子どもはまちの中で働いてお金を稼ぎ、稼いだお金で自由に過ごします。まちには欠かせない場所として市役所(受付)、学校(まちの遊び方を説明)、ハローワーク(仕事を選ぶ)、銀行(給料を受け取る)の4つがあり、ほかに自分たちで好きなお店を企画します。この活動は日本各地で実践されていて、私は以前に勤務していた大学でNPOと一緒に子どものまちを立ち上げた経験があります。遊びを通して子どもが育ち合う事例として授業で紹介したところ、数名の学生が授業後すぐに「佐賀大

※アセスメントツール: 人の能力や性格、適性などを客観的な指標に基づいて評価し、育成などに活用する支援ツール



大学生と子どもスタッフが、5回のまちづくり会議で準備を進めた

学でもやってみよう」と声をかけてくれました。そこで学生会議を立ち上げ、大学内の各方面にも相談したところ、2025年3月、佐賀大学美術館で、鍋島報公会の助成金を受けて開催できることになりました。

まちづくりを中心に進めてくれる小学4〜6年生の子どもスタッフを募集し、集まった子ども20人と大学生で5回にわたり「まちづくり会議」を実施。まちのマークやお金、どんなお店をつくるかを決め



て、それぞれ担当するお店の準備を進めました。当日まにに来る参加者は、年長児から小学6年生までを対象として募集したところ、80人の枠がすぐ定員に達しました。

**みんながいきいき過ぎし今年度も開催が決定**

ワクワクとドキドキが入り混じって迎えた本番当日、大きなトラブルもなく、スタッフも参加した子どもたちもいきいきと過ごしていました。最初は保護者と離れるのが不



安で涙ぐんでいた年長児さんも、途中から夢中になって遊び、みんな10時から15時までぴのびと楽しむ姿が印象的でした。参加者のアンケートでは「楽しかった」という回答が100%という結果に。地域のニーズの高さを実感し、2025年度はもっと多くの人が参加できるように2日間開催することにしました。

**大学生が地域の子どもをサポートする貴重な場**

学生のスタッフは、教育学



部の学生を中心に29人で運営しました。「とても楽しかった」「子どもとの関わり方を学ぶことができた」という声が多く、特に子どもが主役のまちなので、どこまで子どもに任せるか、どうサポートするかを考える貴重な経験になったようです。初めての開催でやってみて分かった改善点もいくつかありましたが、学生スタッフは臨機応変に子どもをサポートし、大いに楽しんでくれていました。

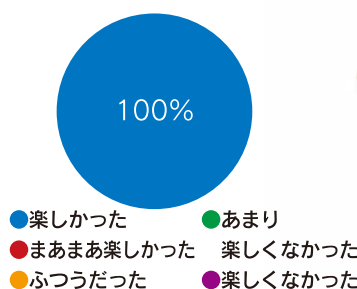
2回目となる今年度は、学

当日は、まちづくり会議でみんなで考えた3つのお店を出店。「雑貨屋」ではスライムやプラバンづくり、「ゲームセンター」ではすごろくや射的ができて、「ステージ」はファッションショーやアイドルショーで盛り上がった

生たちが主体的に準備を進めてくれていて、私は見守るだけの役割になりました。とても頼もしく、学生がどんどん成長していく様子をうれしく思っています。

学生の「やってみよう」という気持ちから誕生したミニさぎの活動を、これからも続けていければいいなと思っています。スタッフには他学部の学生もいるので、興味がある人はぜひ一緒に子どもたちとのまちづくりに参加してみませんか。

■子どもスタッフアンケートより「ミニさぎ」はどうでしたか？

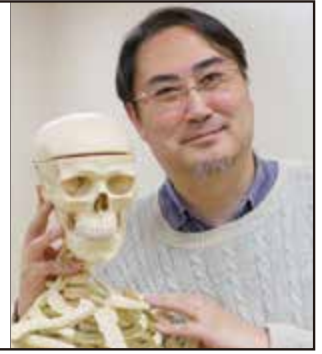


ミニさぎのお金は3種類。動いてお金をもらい、遊ぶときに払った

# とうがい 出土した頭蓋をもとに復顔を行い 日本列島住民の顔の変遷に迫る

医学部 生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 助教

川久保 善智 KAWAKUBO Yoshinori



## 幼少期に「絶滅」に魅かれ 骨から復顔する研究者に

医学部医学科の学生を対象に、「解剖学概説」の講義、「肉眼解剖学実習」の指導及び実習前講義を担当しています。また、教養科目として「人類学」も教えていて、こちらは文化人類学ではなく、自然人類学というヒトを生物学的な視点から研究する学問です。霊長類からヒトへの進化や、その



復顔の作業風景。左は吉野ヶ里遺跡出土土人骨（渡来系弥生人）、右は唐津市呼子町大友遺跡出土

結果として生み出された現生人類の生物学的な多様性が研究のテーマになります。その中で、私は猿人から現生人類に至る人類史の講義を担当しています。

幼少期にニューヨークのアメリカ自然史博物館に行き、恐竜や同時代の大形爬虫類（魚竜、翼竜など）の骨を見て、古生物の形態や進化に興味を持ちました。「絶滅」という言葉にドキメキを感じながら、現代に存在しない

ことの残念さともっと身近に感じてみたい思いが交錯したものです。

大学では理学部で生物学を学ぶ中で、自然人類学の本に強く魅かれて、編著者である国立科学博物館の先生に進路の相談に行きました。すると人類学を勉強するなら解剖学を学んだ方がいいとアドバイ

スをいただき、大学院は東北大学の医学系研究科に進学。日本列島住民の頭蓋を中心とした、骨の形態学的な時代変化の研究を行いました。すると、現代と過去の人の頭蓋はかなり大きく異なると分かっけて、昔の人々の顔立ちに関心を持つようになりました。博士課程に在学中、縄文時代や続縄文時代の人の頭蓋から生前の顔を推定・再現する復顔を行う機会に恵まれ、その後も度々古人骨の復顔に取り組んできました。

近年では、長岡藩・牧野家当主の復顔を行い、大名家の人々の生前の顔貌を復元できました。また、2025年の春にかけて、福岡県糸島市の新町遺跡から出土した弥生時代早期人骨の復顔を行いました。

## 石膏像を詳細に調査して 伝石田三成の復顔像を完成

さかのぼること1907年、豊臣秀吉に仕えた石田三成が埋葬されていると伝えられていた墓域が京都市で発掘され、検出された人骨は石田三成と断定はできないため「伝石田三成」とされています。それ



川久保先生は、代表的な手法であるマンチェスター法で復顔する

をもとに作られた石膏製レプリカは長らく古人骨の研究者に知られる機会がなかったのですが、2014年に私が京都大学総合博物館で古人骨資料の調査を行っていたところ、偶然レプリカの存在を知りました。そこで私は、自然人類学の



川久保先生が手掛けた「伝石田三成」。今にも動き出しそうな雰囲気だ

先人たちが果たせなかった石膏像の詳細な自然人類学的調査を行い、分析結果を反映させて復顔を作成しようと決意。京都大学と交渉の末、2022年にプロジェクトをスタートしました。京都大学総合博物館で石膏像の3Dスキャンを行って表面形状データを取得し、東北大学歯学部で損傷部の補綴を完了。それから、佐賀大学法医学教室の先生方の協力を得て分析を行い、さらに骨から顔つきを推定する相同モデルを応用して、顔の中

央部分の皮膚形状のシミュレーションを実施しました。これらの研究結果を踏まえ、研究代表者の私が復顔像を作成しました。粘土で造形するマンチェスター法を基本として作った復顔像を、サンク・アールという博物館などの展示模型を制作する工房で仕上げてもらい、2025年3月に伝石田三成の復顔が完成しました。それを日本解剖学会の総会で発表したところ、朝日新聞で紹介されました。今後は、私が持っている最



顔の中央部分の復元には相同モデルを応用

新の知見をもとに、縄文時代の人の復顔を行ってみたいのです。今の一般的な日本列島の人は大きく異なる顔立ちになると思います。

**アマゾンの先住民はコートとブーツを着用？**

復顔をするときは、骨にさまざまな筋肉をつけた上で、脂肪を考慮しながら皮膚をつけていきます。解剖学はもちろん、人類学的な知識がないと詳細な部分を作ることができません。例えば、骨を見ただけでは眉毛が濃いか薄いか、目が一重か二重かなどは分からないため、時代や地域に関する知識をもとに作り上げていくのです。また、歴史を知

ることも重要です。例えば、南アメリカの先住民でアマゾンに住んでいる人たちはほとんど裸ですが、先祖代々ずっと裸で生活してきたと思いませんか？実は、あの人たちの先祖はもともとコートとズボンを着て、ブーツを履いていたかもしれませんよ。2万年から1万5000年前に、シベリア周辺からベーリング海峡が陸になっているところを渡って北米に入ってきたときは、衣服を作る技術を持っていて暖かい服を身につけていたはずなんです。しかし、不要になっただけで使わなくなり、裸で生活するようになったのでしょうか。歴史も深く知らなければ、復顔を行うときに間違ってしまう。



福岡県糸島市の新町支石墓群9号墓から出土した弥生時代早期の頭蓋をもとにした復顔像。2500年以上前の男性の顔がよみがえった

**人生は焦らず気長に歩んでいけばいい**

初めから明確な目的を持って人生を進むことができれば、それに越したことはありません。ただ、さまざまなことに興味を持ち、常にアンテナを張り巡らし、いざというときにその時点で最良と思える選択を重ねていくのも良いと思います。人生には何度も分岐点があるので、1回や2回の失敗を恐れて思いつめる必要はありません。時間がかかって、少しずつ自分の思いを形にしていきましよう。私の研究テーマは数百、数千、数万年のスケールなので、気長にゆったりと構えていますよ。

# 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を活用した安全な加工で 佐賀の食をもっとおいしく、地域を豊かに

農学部 生物資源科学科 生命機能科学コース 生物資源利用学分野 教授/博士(農学)

野間 誠司 NOMA Seiji



## 食べ物好きな学生が 集まるコース

私の専門は食品保蔵学・加工学です。農学部生命機能科学コース3年生に「食糧流通貯蔵学」、大学院生を対象に「食品生化学特論」「食糧流通貯蔵学特論」を開講し、食品の品質を流通・貯蔵の過程で保つための基礎的な理論と応用を解説しています。

食品の劣化は主に酵素の作用、微生物の増殖、酸化などによつて起こります。これらには水の状態が重要です。食品表面や食品成分に結合せず、自由に動ける水分を自由水といいますが、自由水が多いと酵素が良く働き、微生物が増殖しやすいので、食品の劣化が早くなる恐れがあります。豆腐やこんにやくは水分が多いですが、その大半が食品成分と結合し、自由水は少なめです。

調理の科学のような話もします。例えば加熱調理で固体に近いものと水っぽいものでは、水っぽい方が火の通りが早いですよね。水の振動を介して熱が伝わるためです。包丁を使う際の、力のかけ方も食品の品質

に大きく影響します。根菜類のような硬い食品は両刃包丁を使い、力が入りやすい押し切りで、刺身のような繊細な調理は片刃包丁の長い刃渡りを活かし、弱い力で引いて切る。収穫後から食べる直前までの過程を科学的に解説していますが、学生たちは食べ物が好きで食品メーカー志望も多く親和性が高いです。普段から料理をしてこんなものを作った「料理をしていたらこんな風になった」と話してくれて、逆にこちらが教えてもらうこともあり

## CO<sub>2</sub>で食品を安全に おいしく保つ

大学で食品製造工学の研究室を志望したのをきっかけにこの道へ進みました。教授が月曜の朝一限目からすごいエネルギーで講義をする方だったこと、「既存の装置を改良し、新しいデータを得る」という研究手法も魅力的でした。私にも、その手法がすっかり身について、現在、CO<sub>2</sub>を活用した食品加工法の開発・改良に注力しています。水にCO<sub>2</sub>をブクブクと溶かすと水が酸性になります。酸素

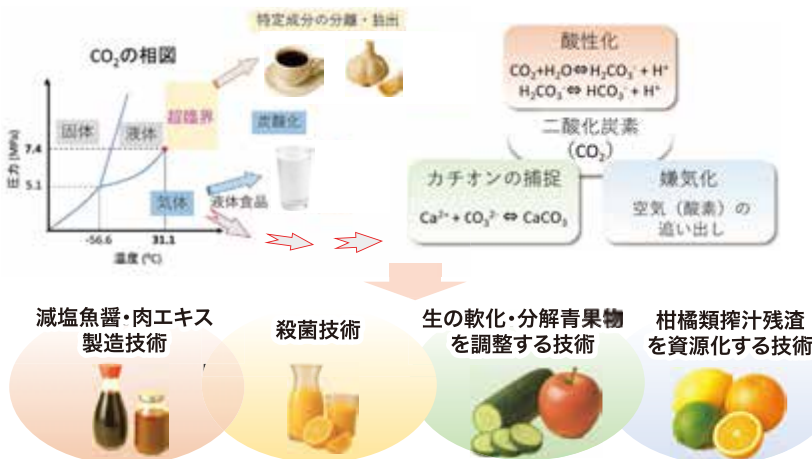
を追い出すことになりましたが、CO<sub>2</sub>が抜ければ元の状態に戻っていきます。これら、CO<sub>2</sub>の溶解と放出に伴う複数の一時的変化を利用した新しい食品加工法の開発を目標にしています。

品質に影響を与えにくい60度、1分間の加熱で100個、10個のレベルへ減らすことができず。したがって、「低温短時間殺菌」が可能になり、新鮮な風味を残したまま安全な飲料を製造できるようなると期待できます。

一例として、CO<sub>2</sub>を用いた細菌の殺菌に取り組んでいます。一般に酸性下で加熱すると微生物をよく殺菌できることが昔から分かっています。そこで、圧力に耐えられる容器(写真A)に細菌を懸濁した水を入れ、CO<sub>2</sub>を吹き込んで溶かし込みます。その懸濁液を加熱処理する装置を構築しました。

もうひとつ例を紹介すると、10年前本学に着任する際、CO<sub>2</sub>を

## 二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を食品加工に利用!



CO<sub>2</sub> を活用して、安心安全かつ革新的な食品加工技術を研究している

の研究に佐賀のものを使いたいと考え、魚醬に注目しました。学生時代、教授が魚醬を脱臭する研究をしていた時期があり、部屋中すごい臭いだっただけですが、その記憶が魚醬を研究対象にする遠因になったと思います。魚醬は魚に多量の塩(25〜30%)を加えて作る調味料。独特の匂いがあります。野菜炒めに少し加えたり、香りがフワッと立ってうま味が増し、料理をとてもおいしくします。

有明海には個性的な魚がいま

ますし、CO<sub>2</sub>下で微生物が発生しにくくなるので減塩しても腐敗せずに魚醬が作れるのではないかと。最初は4種の魚でそれぞれの特徴を活かした減塩魚醬を作り、新たな名物にしようと考えました。しかし困ったことに、風味が似通ってしまう。ただ、その風味は出汁のような匂いとうま味が増した、とても良いものを選びました。そこで新名物は一旦諦め、市場に出ない未利用魚を選別せずに丸ごと原料とした魚醬を目指せば、海洋資源を大切に扱うことにつながると

らと思えます。他にも、青果物の形と生の状態を保ったまま軟化する技術を開発しました。今後、咀嚼感(そしやくかん)が困難な方に、これまでなかった「やわらかい生野菜サラダ」を食べていただける技術に発展させたいと考えています。

**農の学びは社会に役立つ人の喜びにつながる**

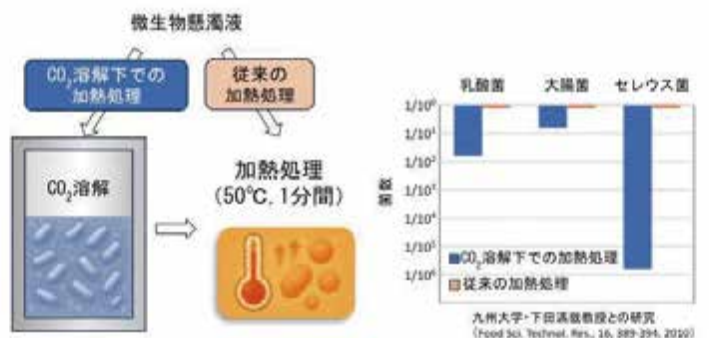
**CO<sub>2</sub>下の発酵で減塩・高品質・風味が安定**



工場から出るCO<sub>2</sub>と廃棄される魚で、佐賀の美味しい魚醬を生産



**低温・短時間殺菌技術の開発**



CO<sub>2</sub>を水に溶かす装置(上左)と研究室で実験する学生さん(上右)。CO<sub>2</sub>溶解下と従来の加熱処理では、殺菌効果に大きな差が出る

発想を転換しました。(左下) 現在、商品化に向け研究中で、学生さんたちも頑張ってくれています。試作品をいろんな食品と食べ合わせさせてみましたが驚くほどおいしく、お酒が欲しくなります。商品

とまず保留にし、別の実験から取れたデータと重ね合わせていくと、先の実験がなぜそうなったかが見えてくることがあります。それは失敗したのではなく想像が足りなかっただけ。後ろで全部繋がって、この条件ではこうなると後で説明がつくことがあるんです。それを繰り返してきて、CO<sub>2</sub>を使う特殊な環境下による食品加工も、より使える技術へと近づいています。

佐賀では清掃工場にCO<sub>2</sub>分離回収設備が設置され、排ガスからCO<sub>2</sub>を取り出して純化する技術がどんどん発展しています。また、CO<sub>2</sub>を新素材の炭素源として利用するリサイクル技術の実装も進んでいます。私の研究では、使用後のCO<sub>2</sub>はそのまま二次利用が可能で、現在大きく発展しているCO<sub>2</sub>の分離回収・リサイクル技術の間で、新たな産業

## 主体性を持った仲間と目指す 人と動物の共生社会



左から副代表の木村一葉さんと代表の大濱冨月さん

佐賀動物レスキュー団体 SART(サート)

代表 <sup>おおはま さつき</sup> **大濱 冨月** 副代表 <sup>きむら かずは</sup> **木村 一葉**

**木村** 主な活動は、社会人の動物愛護ボランティア団体「ハッ

と急成長しました。  
団体のメンバーは約10倍の77名  
は7名の先輩から始まったこの  
場所だと考えています。最初  
ちが挑戦したいことを形にでき  
好きな学生が集まって、自分た  
途上な部分も多いですが、発展  
目のまだ日の浅い団体で、発  
Rescue Team」の頭文  
「SAGA ANIMAL  
大濱 SARTの名前の由来は



今回学生広報スタッフがお話を伺ったのは、「佐賀動物レスキュー団体SART」の大濱冨月さんと木村一葉さん。代表の大濱さんは経済学部3年生、副代表の木村さんは農学部2年生（共に令和8年1月取材時点）。学生の立場から動物愛護のネットワークを広げることで、「人と動物の共生社会の実現」へ貢献することを目的として活動されています。

**木村** 特に力を入れている活動は、やはり「お世話ボランティア」です。  
**大濱** 頻度としては、多い時で月に10回ほど保護猫シェルターへ通っています。部員数が多いため、一人あたりの参加頻度は月に1回程度ですが、継続的に行っていきます。トイレ掃除や壁拭きなどの清掃を行い、最後に猫たちに食事を与えます。作業後の猫たちとの「ふれあいタイム」が、活動の中で最も楽しい時間です。



イオンで「幸せの黄色いレシートキャンペーン」を呼びかける部員

ピーボイス」が運営する保護猫シェルターでの「お世話ボランティア」です。その他にも大学祭への出店、災害救助犬関連のイベント参加、猫の譲渡会の手伝い、イオングループで行われている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加など、幅広く活動しています。

**木村** 印象深い思い出は、「幸せの黄色いレシートキャンペーン」や大学祭の出店、マルシェでの販売などを通じて、多世代の方々と交流できたことです。保護猫活動について会話するだけで、老若男女問わず多くの方が応援してくださっていることを強く実感しました。  
**大濱** 大学1年生の時、佐賀市内の中学校の道徳の授業で、動物愛護についてお話しする機会をいただきました。中学生と直接対話することで、動物愛護という課題の奥深さを再認識しました。



部員の作業後の楽しみ「ふれあいタイム」

※ 毎月11日の黄色いレシートを応援したい団体の箱に入れると、集計されたレシート金額の1%相当の品物がその団体に寄付される仕組み



大学祭で販売した白身魚のフライを挟んだ、ホットキャット！売上の一部は寄付された



県内中学校の道徳の授業に招かれ、動物愛護や活動内容について講演



お世話ボランティアを待つ保護猫シェルターの猫たち

木村 以前は動物を「可愛い」という癒やしの側面ばかりを見ていましたが、実際にお世話をすることで、多頭飼育の苦労や病気の対応、一生飼いつける責任の重さを肌で感じるようになりました。



大演 代表としては、ボランティア団体である以上、活動を一切「強制しない」ことを大切にしています。誰かにやらされるのではなく、自分の意志で動いてほしいからです。また、大所帯の中で、メンバー一人ひとりが組織の一員であるという自覚を持てるよう、入部前には必ず対面で説明を行うほか、私自身も全員の顔と名前を覚え、ミーティングでは全メンバーと直接言葉を交わすことを心がけています。トップが自ら動くことで、信頼し合える組織でありたいと考えています。



大演 私が得たものは、何より「人との繋がり」と「居場所」です。動物好きという共通点を通じて、学部を超えた多くの仲間と出会えました。私たちが組織として安定し、仲良く活動できていなければ、動物たちを救うことはできません。まずは身近な人間関係を大切にすることが、共生社会の実現への第一歩だと確信しています。

大演 入部方法はインスタグラム

木村 保護猫活動に興味がある方は、ぜひ一歩踏み出してみてください。猫と接する時は、上からではなく下から手を出し、まず指先や手の甲で匂いを嗅がせて安心させてあげることがコツですよ！



部員との相島(猫島)旅行

大演 私が得たものは、何より「人との繋がり」と「居場所」です。動物好きという共通点を通じて、学部を超えた多くの仲間と出会えました。私たちが組織として安定し、仲良く活動できていなければ、動物たちを救うことはできません。まずは身近な人間関係を大切にすることが、共生社会の実現への第一歩だと確信しています。



SART 公式 Instagram  
@sart\_saga.u0818



SART 公式 X  
@sart\_saga\_u0818

動物愛護ボランティア ハッピーボイス  
<https://happy-voice.org/>

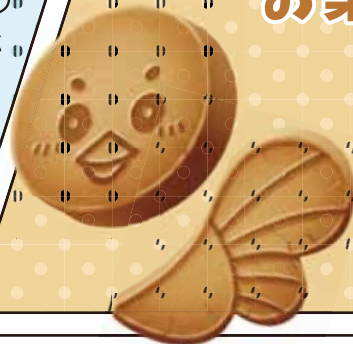


取材を担当したのは、左から林亜依（芸術地域デザイン学部2年）牛嶋優希奈（芸術地域デザイン学部1年）福田花凜（芸術地域デザイン学部2年）カーンターシナナビハ（理工学部3年）

ムのDMで連絡をいただければ、1対1で活動内容を詳しく説明します。学年を問わず、理解した上で納得して入ってほしいです。また、団体の特性上、どうしても学外での活動が多くなってしまうので、車出しができる人が参加してくれるとすごく有り難いです！

## 佐賀大学オリジナル お菓子の開発！

佐賀大学が開発した大豆「佐大 H01号」のきな粉を使用して、カッチーくん型のお菓子を開発！



ついに、カッチーくんカレンダーが完成！カッチーくんのオリジナルイラストが12ヶ月を彩ります。

## カッチーくん 卓上 カレンダー完成！

### 広報室スタッフが企画

今回のプロジェクトは広報室のスタッフを中心となってお菓子の企画開発を進めています。お菓子の種類や味、形だけでなく、パッケージや包装までプロデュースしており、カッチーくんを上品にあらわした洗練されたデザインのお菓子を目指しています。

このお菓子は、佐賀大学を訪れた方のお土産としてはもちろん、来客時のおもてなしや出張時の土産、帰省の際に親御さんへの土産としても利用いただきやすい仕上がりとなっています。



画像は製作段階のもの。様々な種類のクッキーが箱を彩ります

### 有名店とのコラボが実現

開発に協力いただいたのは、県内で人気のパン屋「76pain (ナナロクパン)」様の系列店であ

るカフェ「need(ニード)」様です。自家製サンドイッチやランチ

が楽しめる落ち着いた雰囲気のカフェで、店内には多彩な焼き菓子が並び、ファンも多いお店です。そんなneed様のコンセプトである「日常の中で必要とされる存在を目指す」という思いが、佐賀大学の「地域から必要とされる大学でありたい」という理念と重なったため、今回のコラボが実現しました。今回販売する「カッチーくんクッキー」はneed様の既存商品に加え、佐賀大学が開発した高オレイン酸大豆「佐大H01号」のきな粉を使用したカッチーくんの顔型と羽型のクッキーがセットになっています。「佐大H01号」は通常の約4倍のオレイン酸を含み、風味がよく、お菓子づくりにも最適な大豆です。気になる価格は1箱12枚入りで1620円(税込)。令和8年3月25日より、佐賀大学生協様で販売されますので、皆さんぜひお買い求めください！



開発にご尽力いただいたneedスタッフの藤山さん

### デスクを飾るカッチーくん

この度、佐賀大学生協様とのコラボで「カッチーくんカレンダー」が完成しました！この卓上カレンダーの最大の特徴は、「4月始まり」ということ。大学の運営は4月からスタートします。新入生や教職員にとって、また保護者様にとっても実用性が高いカレンダーとなっています。



実際の8月の「カッチーくんカレンダー」スタンプで公式行事が記入されているので定期試験対策もバッチリ？！

2つめの特徴は、「定期試験」や「夏休み」といった大学の公式行事が既に記入されていること。学生は、大学生活のスケジュール管理がしやすく、保護者様には、帰省時期やサポートが必要な時期を事前に把握できる仕様となっています。こちらは令和8年3月9日より佐賀大学生協様で販売されます。

# 佐賀大学基金ご寄附者芳名帳(令和7年7月～令和7年12月現在)

佐賀大学基金へのご協力に、心より御礼申し上げます。

ご寄附いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここにご芳名を掲載させていただきます。

## 【佐賀大学基金】

明吉真喜男様	石崎康隆様	市川澄子様	岩田征夫様	江口豊様	大坪敏郎様
奥輝之様	小野原雅人様	梶川隆信様	草場俊明様	古賀幸子様	小松邦昭様
相良隆弘様	杉本義昭様	関谷英正様	田中誠之様	徳永勇雄様	富崎昭宏様
中島明様	中田富茂様	永良訓人様	南里耕次様	西川泰右様	西本健一様
橋本朋雄様	東島與一郎様	樋渡京子様	福田正弘様	松園家晴様	水田要様
三橋彰弘様	三宅雄二様	森公義様	山口賢治様	雪竹智様	吉田静子様
吉田千秋様	和智ちさと様	他9名			

## 【美術館募金】

笠原道雄様	門井エツ子様	久保正子様	篠塚秀美様	原口庄塑様	平井明子様
平山伸様	宮原榮作様	諸井政司様	他3名		

## 【修学支援基金】

浅川達夫様	池富香理様	井崎嘉子様	内田進様	江頭省吾様	大川内直人様
奥野弘也様	帯田輝幸様	鐘ヶ江祝明様	(株)エー・ディー・ワークス様	陣内義守様	竹下勉様
栃木義博様	成房正樹様	藤井鹿男様	藤野健一様	古田一陽様	松田千賀子様
御手洗永様	宮田正史様	山口元子様	他10名		

## 【課外(一般)活動支援基金】

木戸宏幸様	他1名
-------	-----

## 【課外(アメリカンフットボール)活動支援基金】

高田俊行様
-------

## 【院内保育所事業基金】

1名
----

## 【課外(ヨット部)活動支援基金】

青谷領一郎様	川崎裕満様	武富映典様	中島啓二様	山村和彦様	他4名
--------	-------	-------	-------	-------	-----

## 【課外(漕艇部)活動支援基金】

雨森貞浩様	大久保秀祐様	柏田知美様	嘉村朋顕様	木村直也様	竹内美香様
徳永能隆様	西原正志様	西村大幹様	広瀬正和様	馬島基則様	松藤祥平様
三好篤様	安武結衣様	雪本薫平様	他3名		

## 【課外(軽音楽部)活動支援基金】

一ノ瀬文男様	岩永智代様	岡政史様	島村拓弥様	峯純恵様	他3名
--------	-------	------	-------	------	-----

## 【課外(準硬式野球部)活動支援基金】

秋山隆行様	加治亮平様	神田佳洋様	須田久雄様	峰松紀年様	本村友一様
諸隈宏之様	他2名				

お問い合わせ先

**佐賀大学基金事務局** 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118  
(佐賀大学総務部総務課内) E-mail kikin@mail.admin.saga-u.ac.jp

■五十音順にて掲載しております。

■お名前のご公表をご希望されていない方につきましては、人数のみ掲載しております。万が一お名前が漏れている等の不備やお気付きの点等がございましたら、誠に恐縮ではございますが、佐賀大学基金事務局までご連絡ください。

いただいたご寄附により、奨学金の給付、課外活動の備品購入等に使用させていただきました。今後とも更なるご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

また、多数の卒業生からもご寄附をいただいておりますが、卒業生への広報活動には佐賀大学同窓会のご協力をいただいております。この場を借りて御礼申し上げます。



## 佐賀大学校友会は、在学生の海外留学、国際活動や課外活動、ボランティア活動などで頑張っている学生への支援を行っています。

佐賀大学校友会では会員になっていただける方を募集しています。

校友会事業の詳細については、佐賀大学校友会HPに掲載しております。

佐賀大学校友会の活動についてご賛同いただきご入会いただきますようお願いします。

詳細はこちらでご確認下さい。

佐賀大学校友会HP <https://koyukai.admin.saga-u.ac.jp>

●会員制のため、ご芳名は公表しておりません。

問い合わせ先

**佐賀大学校友会事務局**

〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
(佐賀大学総務部総務課内)

電話 0952-28-8390 FAX 0952-28-8118

E-mail : koyukai@mail.admin.saga-u.ac.jp

# 佐賀大学美術館情報

- ・入場無料
- ・休館日：月曜日(祝日の場合、翌火曜日)
- ・開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

## 香る景色と見えない世界 Invisible Landscapes: Scented Visions



廣瀬智央 《ミントバー》 2021年 ミクストメディア  
サイズ可変 Photo by Tartaruga

会期：2026年4月1日(水)～2026年5月31日(日)  
会場：ギャラリー1、ギャラリー2、スタジオ

「香り」や「匂い」は、人間がもつ五感の中でもとりわけ主観性が強く、他者と共有することが難しい感覚です。ある香りを心地よいと感じる人がいれば、不快に捉える人もいるように、その受け取り方は生き物や個人の感覚に深く依存しています。本展が目指すのは、その違いを一つにまとめたり、理解不能なものに迫ったりすることではなく、互いに異なる感覚が確かに存在していることを認め、その多様性そのものを想像し、共感する試みです。私たちは同じ世界を生きているように見えて、実際にはそれぞれ異なる世界を感じ取っています。その違いに気付いたとき、世界はむしろ豊かに広がり始めるのかもしれませんが。

本展では、常木理早、廣瀬智央、前田真治の3名のアーティストが、身体や感覚を通じて多様な知覚のあり方を探る新作を中心に紹介します。感覚の奥行きから立ち上がる、見えない世界の広がりをご体感ください。

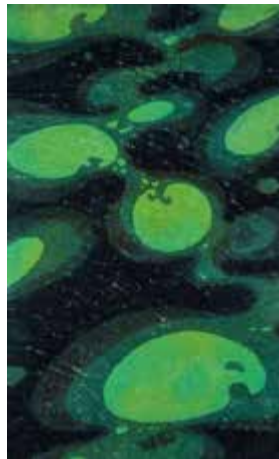


## 誌上ギャラリー

2025年度 芸術地域デザイン学部・大学院地域デザイン研究科 卒業修了制作展



彫刻 「もきゅつ」  
杉吉 亜依奈



染色 「泡沫夢幻 廻」  
渡辺 結南



10名

カッチーくん柄のハンカチ  
タオル!



10名

ボールペンと付箋紙の文  
房具セット!

### 合計20名様に当たる! 読者プレゼント

読者アンケートにお  
答え頂いた方の中から  
抽選で合計20名の方に、  
佐賀大学オリジナルグ  
ッズをプレゼントいたし  
ます!**Webアンケート**  
に回答してご応募くだ  
さい。応募期間は5月末  
日迄。当選者の発表は賞  
品の発送をもって代え  
させていただきます。た  
くさんの  
応募をお  
待ちして  
います!



Webアンケート